

# 「身体を動かす楽しさに気づき、進んで運動をしようとする児童の育成」

高崎市立寺尾小学校

## 今年度の取組内容・成果

### 1 体育

#### ① 体育授業の充実

- ・新単元「テニピン」「アルティメット」「ニコニコシャトルラン・セイムゴール」「てらおゴルフ」を導入し、非接触型でも楽しめる体育の授業実践を行った。→児童が主体的に活動し、運動量を確保することができた。
- ・体育専科を中心に、体育授業プランの作成、授業環境の整備、教材・教具の開発等を行った。また、授業の児童の振り返りを、次時のめあてに生かしたり、課題解決への手段として活用したりするなど、授業改善を図った。→体育が楽しいと実感できる児童が増えた。



(手作りラケットでテニピン)



(ドッジビーでアルティメット)



(ソフトフォームボールでボール投げ)

#### ② 運動に親しむための環境整備

- ・体育で行っている単元について、「鉄棒ウィーク」「マットウィーク」を休み時間に自由に練習できる期間を設定した。自由参加とし、他学年交流を避けるため体育館を使用できる学年を指定し、体育部の教員が指導に当たった。→苦手意識をもつ児童も意欲的に参加し、多くの児童が運動に親しむことができた。
- ・11月に休み時間を利用し、自分が挑戦したい種目を選んで練習できる「体カアップチャレンジ週間」を実施した。→自分の記録向上を目指し、進んで運動しようとする児童の姿が見られた。
- ・児童発案の「外で遊ぼうウィーク」や運動フェスティバル前の「ダンスウィーク」等、児童主体の企画を実施した。→休み時間に普段外で遊ばない子が外に出たり、自分の好きな曲に合わせて楽しそうに踊ったりする姿が見られた。



(体カアップチャレンジ週間の握力測定)



(ダンスウィーク)



(鉄棒ウィーク)

### 2 食育

#### ○ 食習慣の見直し

- ・週に一度の給食時に栄養士による校内放送では、献立の内容や栄養の話だけでなく、旬の食材や生産者の話、食事のマナー等についても行った。
- 児童は真剣に放送を聞き、苦手な物でも健康のために食べようとする児童の姿が見られた。

・「食育に関する指導の手引き」を参考に、栄養士と担任によるＴＴでの授業実践を行った。

→児童は、群馬県の郷土食について知り、食に対する関心が高まった。



(栄養士による放送)



(食育の授業実践)



### 3 保 健

#### ○ 生活リズムの改善

・学期に1回、「元気アップ週間・ノーメディア週間」を設定し、早寝早起き朝ごはん及び運動の実践を行った。→自分の結果を自分で記録・入力し集計結果を知ること、自分の成果と課題を明確にすることができた。

・「発達段階に応じた歯科指導」「がん教育」を中心に、養護教諭と担任によるＴＴでの授業実践を行った。→養護教諭として専門的な立場からの説明により、児童はより規則正しい生活をしようという意識をもつことができた。



(元気アップ週間)



(がん教育)



(歯科指導)

### 4 家庭・地域との連携

#### ○ 保護者への周知・啓発

・本校の取組について「学校だより」「学年・学級通信」「保健だより」「給食だより」等各種通信で周知してきた。また、「元気アップ・ノーメディア週間」や各学級の食育・保健指導の際には、生活習慣の改善が図れるよう、家庭に協力を呼びかけた。→保護者の意見や感想から、我が子や家庭の課題を捉え、改善していきたいという声が多く聞かれた。

#### 次年度に向けた取組や課題

昨年度に引き続き今年度も、体力向上モデル校として学校全体で様々な実践を行ってきた。次年度以降も、この研修内容が継続できるよう、いつでも、どこでも、だれでも実践できる体育授業プランを整えたり、運動に親しむ環境整備や計画的な食育・保健指導等を行ったりしていく必要がある。今年度の「保健・体育・食育」が三位一体となった取組を生かし、工夫・改善を加えながら全校体制で計画的・組織的な取組を推進していきたい。